

5.子ども食堂の利用者が求めるもの：食事、体験と季節イベントに着目して

青山洋唯

第1章 なぜ子ども食堂の利用者調査か

本稿の目的は、利用者は子ども食堂に何を求めているのか、どうすれば子ども食堂は利用者のニーズに応え、地域に根付くことができるかを考察する。それを、子ども食堂の利用者にアンケートの結果の「充実させてほしいこと」に焦点を当て明らかにする。子ども食堂利用者の「充実させてほしいこと」を明らかにすることで、子ども食堂がさらに活性化し、利用者の満足度を上昇させることに繋がると考えたからである。

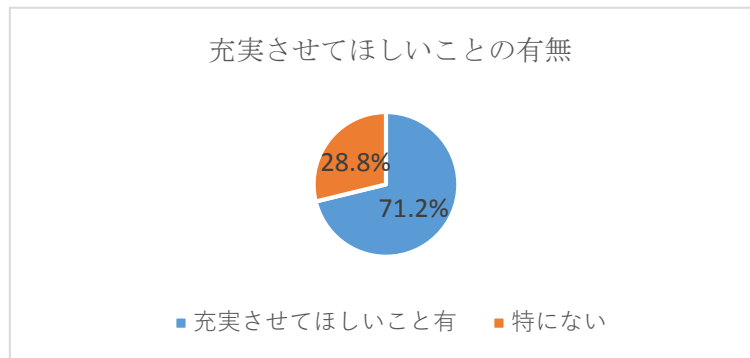
この調査により、子ども食堂は利用者のニーズにより多く応えることで、地域の多くの人々が参画し、地域を共につくっていくことで、地域の寄合所のような場所として継続する可能性を切り開くことができると考えられる。

社会活動家の湯浅誠は「こども食堂に『来てほしい子』は来ているのか？」¹という論文で運営者側から考察する「子ども食堂を必要としている利用者」が調査されていた。しかし、利用者側からの調査や考察は不十分である。また、2017年10月に行った農林水産省の調査においても利用者に関する情報は乏しい²。主な課題である「来てほしい人や家庭の参加」についてのアンケート結果も運営者へのアンケートであるため、子ども食堂を利用する側の実態を把握し得ていない。しかも、農林水産省調査では、愛知県の子ども食堂は5か所だけが回答している。こうした理由から、愛知県内のより多くの子ども食堂を対象とした調査が必要であるという結論に至った。

子ども食堂の調査が本格化した以来、子ども食堂の運営者側の調査はそれなりに見かけられるようになったが、利用者に着目した調査はほぼ皆無である。利用者から見た子ども食堂をより深く調査する必要があると感じた。そこで子ども食堂に参加する中、利用者にアンケートを実施した。このアンケート結果から、利用者が子ども食堂の何を充実させてほしいのかを浮き彫りにし、利用者のニーズを明確にする。そこから利用者の目的、ひいては「子ども食堂に何を求めるのか」を問いとし、考察していきたい。そして、そもそも「子ども食堂」とは何なのかを自分なりに考察する。少しでも今後の子ども食堂の発展に繋がる調査にしたい。

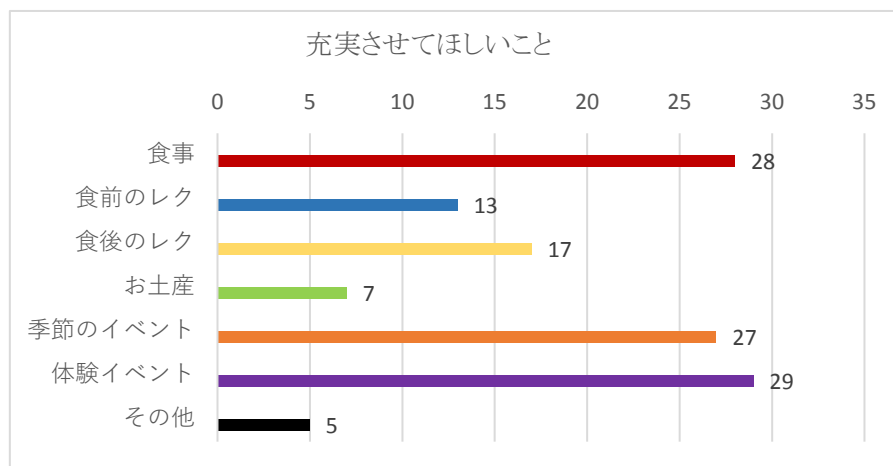
第2章 子ども食堂利用者が求めるもの

利用者のニーズを把握するために着目した質問項目は「子ども食堂で現在行っていることで、今後さらに充実させてほしいことについて」である。はじめに、充実させてほしいことの有無の割合を明らかにする。アンケートの Q.7 の回答結果の集計より以下のグラフのようになった。



アンケートにご協力いただいた23か所の子ども食堂のうち、大人用アンケートの回答数は102人で、その内、74人が充実させてほしいことを1つ以上回答している。「特にない」と答えたのは30人である。

この結果から、子ども食堂を利用する大人の7割は今の利用する子ども食堂に、何らかの+αを求めていることが分かる。では、その+αとはどのようなものなのか、その回答は、以下の通りである。



※複数回答

まず注目したいのは、「食事」をより充実させてほしいという人が多いことである。多くの子ども食堂が、子どもは無料～100円、大人300円～500円の安価な価格であることや、子ども食堂の食費は支援金や個人の資金などから賄われているため、豪華な料理を提供するのは困難である。もちろん、子ども食堂の規模で料理の質は変わってくる。1日の来客数が30人～50人ほどの子ども食堂では1人あたりにかけられる費用、時間は多くなるが、1日の来客数が50人～100人ほどの子ども食堂では1人あたりにかけられる費用、時間は少なくなる。アンケートを調べてみると、「食事」を充実させてほしいと答えたのは、1日の来客数が多い子ども食堂の利用者であった。居場所づくりとしての意味合いの強い子ども食堂であるが、食事をしに行く利用者にとって一種の外出というイメージもあるのではないかと考える。子ども食堂の重要な要素として「食事の質」を見直し、改善していく必要があると考える。

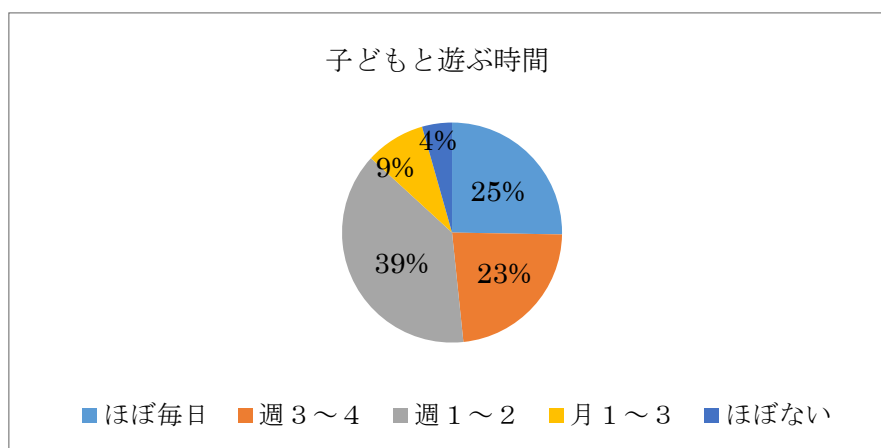
次に注目したいのが、「季節のイベント」と「体験イベント」を充実させてほしいと感じ

る人が多いということである。ひとくくりに「イベント」として捉えれば、利用者が一番多く求めているものであると考えられる。

「季節のイベント」の例として、「秋祭り」や「クリスマスイベント」などが挙げられる。「秋祭り」は子どもが楽しめるゲームを実施し、その景品などを用意するというのが一般的なものである。「クリスマスイベント」では、クリスマスリースを作る時間や、マジックショーを開催するなど、普段の子ども食堂とは変わった雰囲気子どもを楽しませることが出来る。

「体験イベント」の例として、夏休みの「流しそうめん大会」や「スイカ割り大会」などが挙げられる。どちらも子どもに人気なものであり、どの家庭でも簡単に体験できないイベントであるため、利用者の満足度は非常に高いイベントである。

この2つのイベントを親が求めるのには理由があると感じる。それは、子どもと過ごす時間をより濃いものにするためであると考えられる。アンケートの Q.12-3 の結果が以下のとおりである。



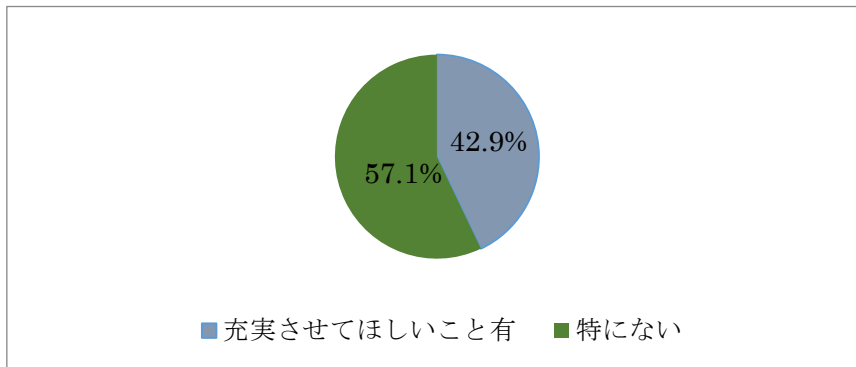
子どもと過ごす時間が週3~4以上あれば子どもと過ごす時間を十分確保出来ているとすれば、一見、利用者の約5割が子どもとの時間を確保できているように見える。しかし、子どもと過ごす時間が週1~2以下が5割以上を占めている結果が潜んでいる。

この結果がイベントを求める声に繋がっていると考えられる。子どもと過ごす時間が取れない親が子どもと思い出を共有したいのだと考える。もちろん一緒に食事をするのも思い出の1つであるが、より濃い思い出を共有するために、子どもと同じ体験をしたいと感じているのではないだろうか。また、家庭では出来ない体験をさせてあげたいという思いも強いのだと考える。

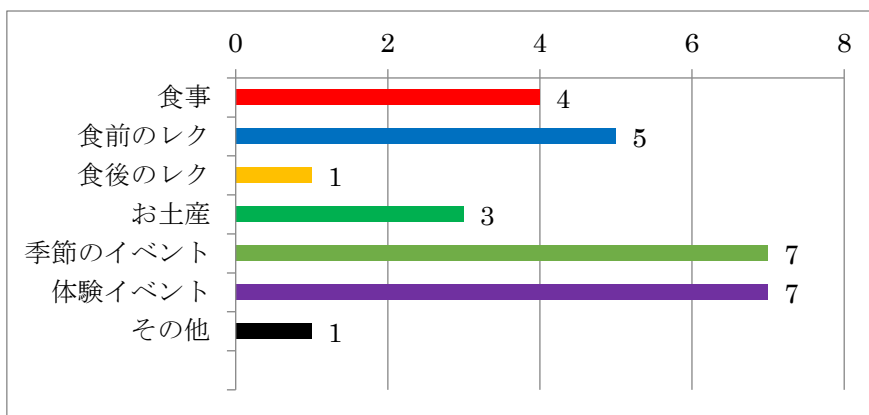
第3章 子ども食堂へのボランティア経験からみえてくるもの

これまで、愛知県の24カ所の子どもの食堂の利用者調査から、利用者が子ども食堂に求めるものは何かについてみてきたが、ここでは自らボランティアとして参加した「せと・まんぷく子ども食堂」と「パークサイド食堂」における利用者のニーズの異同について検討することにした。

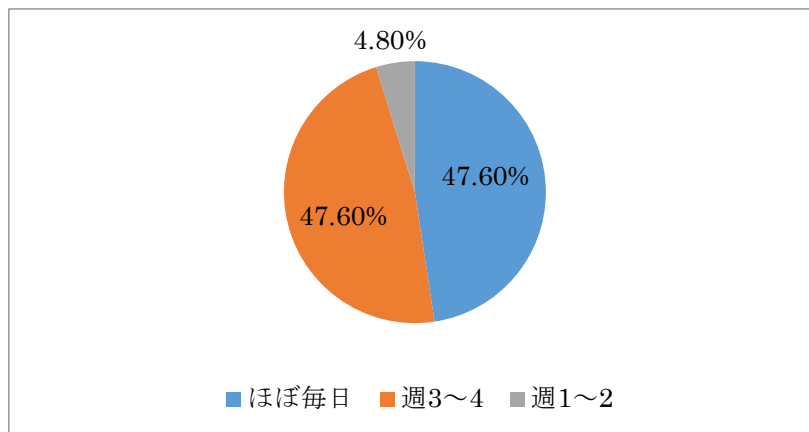
まず、「せと・まんぷく子ども食堂」の概要は以下である。



(Q.7 より)



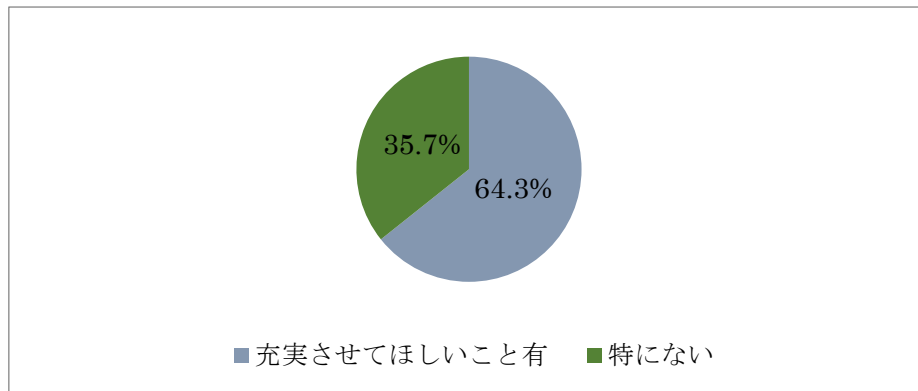
(Q.7)



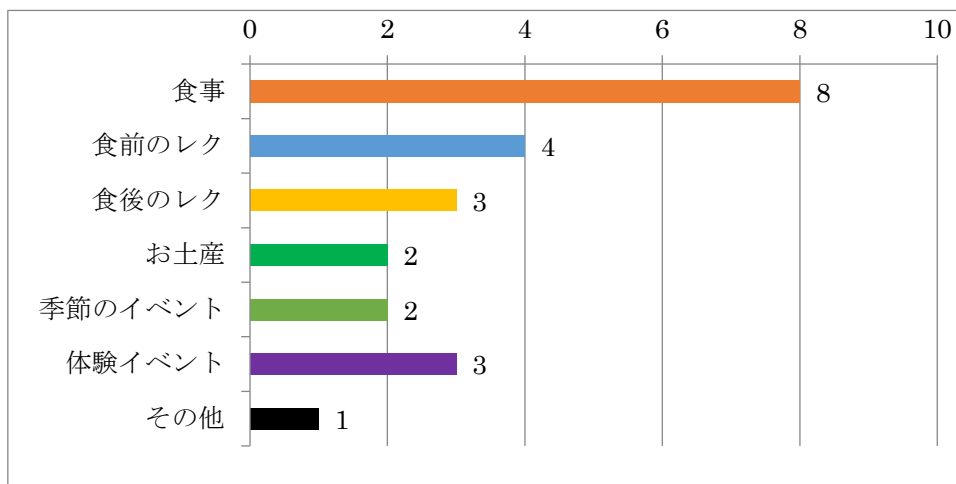
(Q.12-3)

せと・まんぷく子ども食堂の利用者は子どもと過ごす時間が相対的に確保できている。9割強の利用者が週3~4以上子どもと過ごす時間を確保している。しかし、先ほど考察した段階では、「確保できていないほどイベントを求める割合が高い」と指摘したが、せと・まんぷく子ども食堂の場合、子どもと過ごす時間が確保出来ていてもイベントを求める割合は高い。これは何に起因するのか、今回の調査では十分な解明ができない。

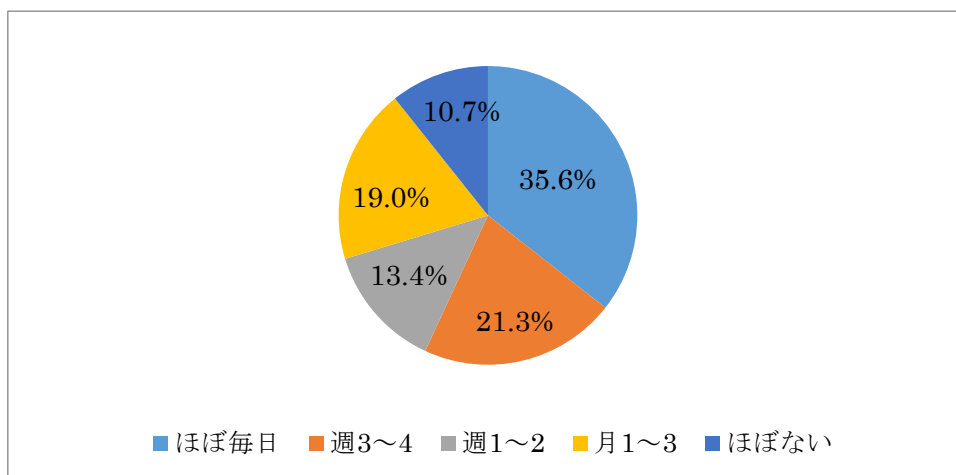
次に、「パークサイド食堂」の結果を示す。



(Q.7 より)



(Q.7)

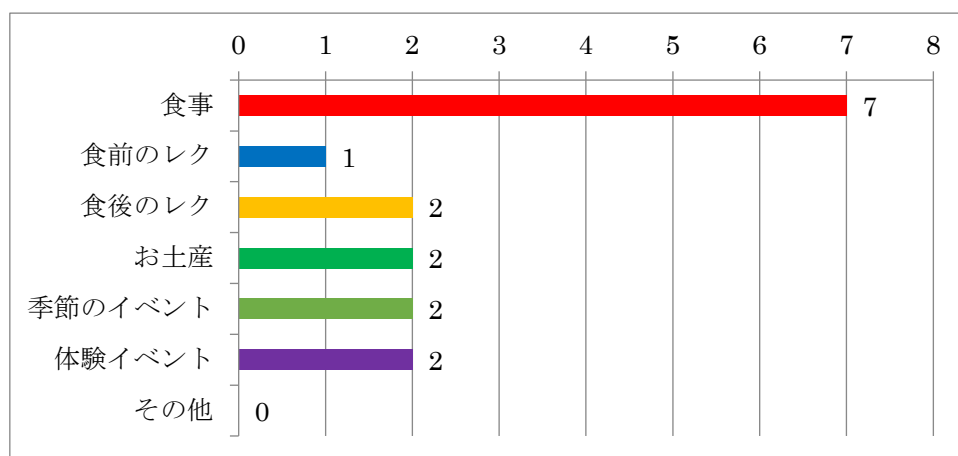
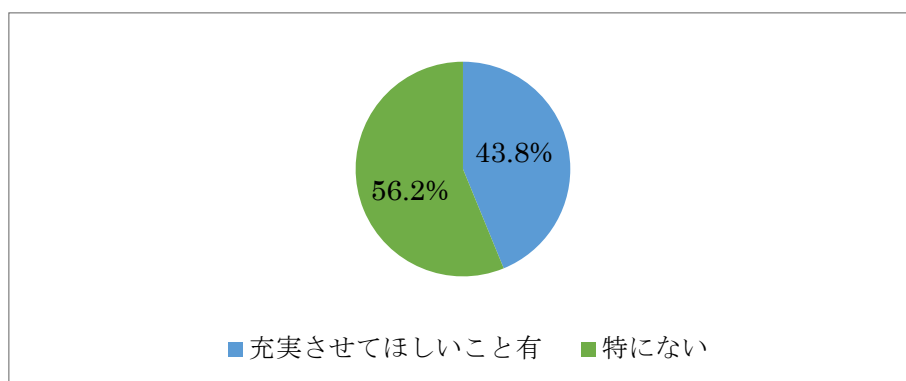


(Q12-3)

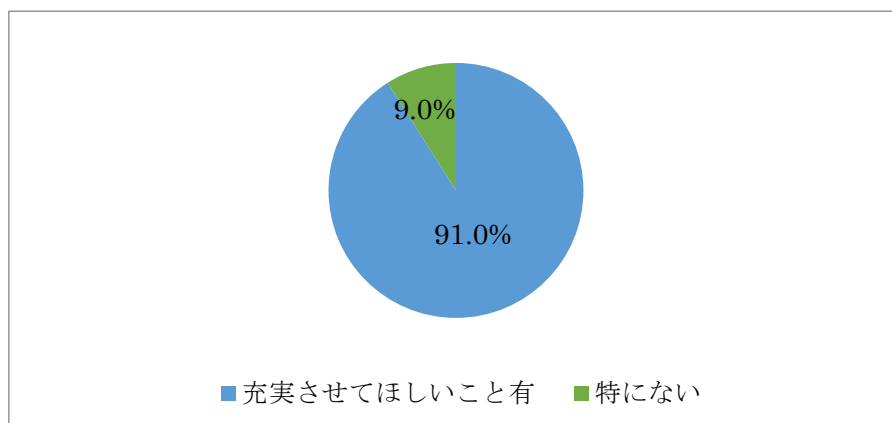
パークサイド食堂はレクリエーションやイベントが充実している分、利用者の多さから食事の充実の声が多かった。せと・まんぷく子ども食堂と異なるのは利用者の多さである。先ほど述べた通り、利用者が多い子ども食堂では、経費やスタッフの数などの点から、食事

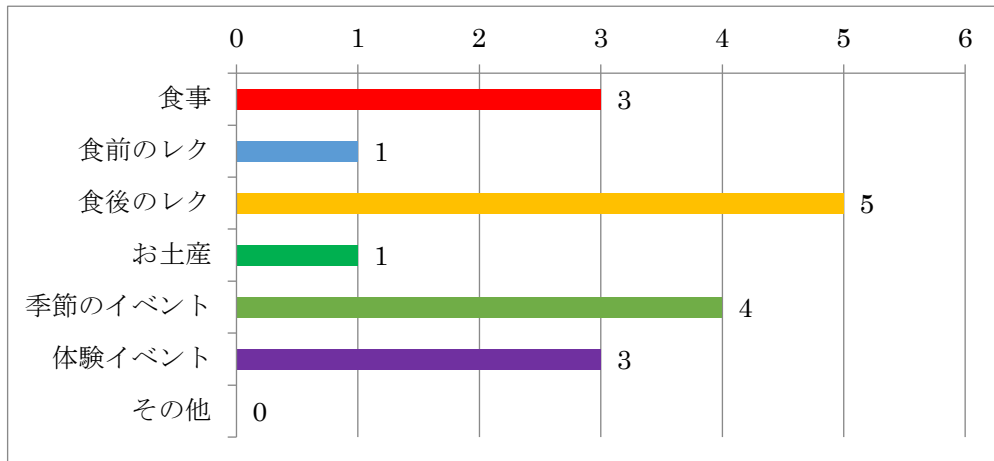
の質を上げるのが困難である。このように子ども食堂で充実させるべき要素は異なり、各々に取り組むべき課題も異なる。子ども食堂の利用者の満足度をあげるための対策として、全ての子ども食堂に同じようなものに取り組みばよいということではないことだけ指摘しておきたい。

そして、他の要因との関連も気になった。そこで子ども食堂の開催頻度がニーズに関係するのかを確認した。月1回開催の「わいわい子ども食堂」、月2回開催の「おっかわちよっこり子ども食堂」の2か所である。使用するアンケート結果はQ.7である。最初に月1回開催の「わいわい子ども食堂」のアンケート結果は以下のようなものである。



次に月2回開催の「おっかわちよっこり子ども食堂」のアンケート結果である。





月2回開催の子ども食堂の方が充実させてほしいことがある割合が高いのは意外である。「わいわい子ども食堂」は月1回開催であることから、その1回に利用者が集中するため、食事の充実が求められている。その分、子どもが楽しめるレクリエーションやイベントは充実している。「おっかわちよっこり子ども食堂」のような月2回開催の子ども食堂は2回に利用者が分散されている可能性があり、一人ひとりに対する食事の質は高くできる。利用者の数が分散されるということは、子ども食堂当日は、利用者の少ない月1回開催の子ども食堂と同じである。ということは、先ほど述べたように「せと・まんぷく子ども食堂」のように、1人1ひとりにかけられる費用、時間は多くなる。よって食事の質を上げることができる。しかし、月2回ということがイベントの企画を難しくする可能性がある。もちろん、月1回にすればよいというわけではないが、利用者が多ければ多いほど当日の運営は忙しいものになる。利用者を配膳関係のため入れ替えしなくてはならない子ども食堂もある。賑やかではあるが、落ち着いた雰囲気を求める利用者もいるかもしれない。子ども食堂の正解の姿はあるのだろうかという疑問に思った。多種多様な子ども食堂の形態、取組みが存在するが、何か1つの要素を充実させれば、他の要素は手薄になる。何か1つ課題を解決すれば、次の課題が見えてくる。この中で、正解と言える子ども食堂が完成するのだろうかという疑問は十分に解明できなかった。

第4章 今後の子ども食堂が充実させるべきもの

本稿では、子ども食堂の利用者が求めるものを、食事と体験・季節イベントに着目して考察してきた。食事と体験・季節イベントは、今の子ども食堂には欠かせない要素であることが分かった。同時に、既に2つとも充実している子ども食堂はまだ少ないということも分かった。もちろん各子ども食堂でも取り組んでいるところもあり、また重要であることも理解している子ども食堂がほとんどである。しかし、利用者も同じように感じていて、充実するのを待ち望んでいるという事実も貴重なものである。また、冒頭で語った、運営者と利用者との子ども食堂をめぐる捉え方が同じであるのかという疑問に対しては、図らずも、ほぼ同じであることが確認できた。

子どもの遊び時間の変化に関する調査(財団法人公園緑地管理財団,2001)によると、1960年代中ごろを境として、室内における遊び時間と屋外における遊び時間の量が逆転し、以降、

屋内における遊び時間が増え続けている。「夢中になって遊べる遊び」は一位がテレビゲームであった。これらのことから、子ども達の遊び場は自分の家や友達の家など屋内に移っていることがわかる。公園や自然環境の中で遊ぶことも際立って少なくなっているというだけでなく、遊びの時間も減少している。これらの傾向は子ども時代のさまざまな体験を阻む要因になっていると考えられる。日本ではプレーパークという「冒険遊び場」がある。1970年代の中ごろから、「自分の責任で自由にあそぶ」モットーに掲げた「冒険遊び場」は誕生した。この場所では子どもが様々な体験や遊びを経験出来るようになっている。

子ども食堂はこの「冒険遊び場」を意識した運営が求められているのではないかと考える。家では出来ない体験、経験が出来る場所やイベントを通して子どもの成長に繋がる場所を利用者は求めているのではないのだろうか。もちろん、屋内で体験するイベントや用意しているスペース的にフリーパークのような開放的な遊び場の実現は困難であるかもしれない。また、子どもが怪我をするかもしれないという親の不安もついてまわると考える。そこで親も一緒に体験できるイベントに力をいれることでその不安も払拭できる可能性も高いことは指摘しておきたい。そこから利用者のアイデアや意見も取り入れながら、イベントも改善していくことでフリーパークとは一味違う「冒険遊び場」としての子ども食堂が完成するのではないかと考え、その貢献に今後も関わっていきたい。

参考文献

- 1 湯浅誠、2018年5月5日、「子ども食堂に『来てほしい子』は来ているのか？」
(<https://news.yahoo.co.jp/byline/yuasamakoto/20180505-00084818/>) (2019年12月5日アクセス)
- 2 農林水産省、2017年11月「子ども食堂向けアンケート調査 集計結果」
(<http://www.maff.go.jp/j/syokuiku/syukeikekka.pdf#search=%27%E8%BE%B2%E6%9E%97%E6%B0%B4%E7%94%A3%E7%9C%81+%E5%AD%90%E3%81%A9%E3%82%82%E9%A3%9F%E5%A0%82%27>) (2019年12月5日アクセス)
- 3 日本冒険遊び場づくり協会、2003年「冒険遊び場づくりの歴史」(2019年12月5日アクセス) (<http://bouken-asobiba.org/know/worldhistory.html>)
- 4 早稲田大学 安井悠介、2011年「日本における『冒険遊び場』活動の発展の過程」(2019年12月5日アクセス) (<http://www.waseda.jp/sem-muranolt01/SR/S2011/S2011-yasui.pdf#search=%27%E6%97%A5%E6%9C%AC%E3%81%AB%E3%81%8A%E3%81%91%E3%82%8B%E3%80%8C%E5%86%92%E9%99%BA%E9%81%8A%E3%81%B3%E5%A0%B4%E3%80%8D%E6%B4%BB%E5%8B%95%E3%81%AE%E7%99%BA%E5%B1%95%E3%81%AE%E9%81%8E%E7%A8%8B++%E6%97%A9%E7%A8%B2%E7%94%B0%E5%A4%A7%E5%AD%A6%27>)